

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成24年5月31日(2012.5.31)

【公表番号】特表2011-525106(P2011-525106A)

【公表日】平成23年9月15日(2011.9.15)

【年通号数】公開・登録公報2011-037

【出願番号】特願2011-512668(P2011-512668)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 31/475 (2006.01)

A 6 1 K 31/573 (2006.01)

A 6 1 K 31/136 (2006.01)

A 6 1 K 31/704 (2006.01)

A 6 1 K 31/675 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 Q 1/68 Z N A A

G 0 1 N 33/53 M

G 0 1 N 33/53 D

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 39/395 T

A 6 1 K 31/475

A 6 1 K 31/573

A 6 1 K 31/136

A 6 1 K 31/704

A 6 1 K 31/675

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月30日(2012.3.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

患者における瀰漫性B大細胞型リンパ腫(DLBCL)の治療結果を予測する方法であって、

DLBCL患者から試験試料を得ること、

GCET1、HLA-DQA1、HLA-DRB、HLA-DRA、ACTN1、COL3A1、PLAU、MYC、BCL6、LMO2、PDCD4およびSOD2から成るグループから選択された複数の遺伝子の発現産物のレベルを検出すること、および

試験試料中の遺伝子の発現産物レベルを、対照における遺伝子の発現産物レベルと比較

すること、からなり、

対照における遺伝子の発現産物レベルと比較した試験試料中の遺伝子の発現産物レベルは、化学療法薬の組み合わせと共にモノクローナル抗体治療薬を受けた場合のDLBCL患者の治療結果の予測に使用できる、方法。

【請求項2】

前記化学療法薬の組み合わせは、シクロホスファミド、オンコボリン、プレドニゾン、ならびにヒドロキシダウノルビシン、エビルピシンおよびミトキサントロンから成るグループから選択された1つまたは複数の化学療法薬の組み合わせを含む請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記モノクローナル抗体治療薬は抗CD20モノクローナル抗体治療薬を含む請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

前記対照は、対照患者集団の遺伝子の平均発現産物レベルを含む請求項1-3のいずれか一項に記載の方法。

【請求項5】

治療結果を予測する際に患者の国際予後指標(IPI)を評価することをさらに含む請求項1-4のいずれか一項に記載の方法。

【請求項6】

MYC、HLA-DRBおよびPDCD4のうちの複数の発現産物レベルが検出される請求項1-5のいずれか一項に記載の方法。

【請求項7】

HLA-DRBおよびMYCのうちの1つまたは複数の発現産物レベルが検出される請求項6に記載の方法。

【請求項8】

前記発現産物がmRNAである請求項1-7のうちのいずれか一項に記載の方法。

【請求項9】

前記検出することはヌクレアーゼ保護アッセイを含む請求項8に記載の方法。

【請求項10】

前記発現産物がタンパク質である請求項1-7のうちのいずれか一項に記載の方法。

【請求項11】

患者試料はパラフィン包埋した組織試料を含む請求項1-10のいずれか一項に記載の方法。

【請求項12】

合計で12個以下の遺伝子の発現産物のレベルが検出される請求項1-11のいずれか一項に記載の方法。

【請求項13】

患者における瀰漫性B大細胞型リンパ腫(DLBCL)の治療結果を予測する方法であって、

DLBCL患者から試験試料を得ること、

GCET1、HLA-DQA1、HLA-DRB、HLA-DRA、ACTN1、COL3A1、PLAU、MYC、BCL6、LMO2、PDCD4およびSOD2から成るグループから選択された1~12個の間の遺伝子の発現産物のレベルを検出すること、

患者の国際予後指標(IPI)スコアを決定すること、

試験試料中の遺伝子の発現産物レベルを、対照における遺伝子の発現産物レベルと比較すること、からなり、

患者のIPIスコアと組み合わせた、対照における遺伝子の発現産物レベルと比較した試験試料中の遺伝子の発現産物レベルは、化学療法薬の組み合わせを受けた場合のDLBCL患者の治療結果の予測に使用できる、方法。

【請求項14】

GCET1、HLA-DQA1、HLA-DRB、HLA-DRA、ACTN1、COL3A1、PLAU、MYC、BCL6、LMO2、PDCD4、およびSOD2から成るグループから選択された2～12個の間の遺伝子の発現産物に対するプローブを含有する組成物であって、プローブは、オリゴヌクレオチドプローブ、抗体プローブ、オリゴヌクレオチドプライマー対およびアダマーから成るグループから選択され、プローブは検出可能となるよう任意選択で標識される、組成物。

【請求項15】

患者における瀰漫性B大細胞型リンパ腫(DLBCL)の治療結果を予測する方法であって、

DLBCL患者から試験試料を得ること、

GCET1、HLA-DQA1、HLA-DRB、HLA-DRA、ACTN1、COL3A1、PLAU、MYC、BCL6、LMO2、PDCD4、およびSOD2から成るグループから選択された2～12個の間の遺伝子の発現産物のレベルを検出することであって、合計で16個以下の遺伝子の発現産物のレベルを検出すること、および

試験試料中の遺伝子の発現産物レベルを、対照における遺伝子の発現産物レベルと比較すること、からなり、

対照における遺伝子の発現産物レベルと比較した試験試料中の遺伝子の発現産物レベルは、化学療法薬の組み合わせを受けた場合のDLBCL患者の治療結果の予測に使用できる、方法。